



こんにちは!

気象庁です!

4月号
平成21年
(2009年)



5日先までの台風進路予報 ~台風への注意・備えを早期に呼びかける情報~

気象庁は、平成21年春から台風の進路予報を3日先から5日先まで延長します。3日先までの予報（以下、3日予報）は従来通り発表します。3日予報で「3日先も台風の強さをもつ」と発表した台風については、3日予報に加えて、4日先、5日先の進路を予報円（注1）の形式で予報します（表、図）。図の予報例では、台風は3日先以降北に進んで4日先には西日本、5日先には本州から北海道にかけて近づく可能性が高いことを示します。このように新しく開始される3日先より後の予想進路に基づいて、従来よりも早めに台風に備えることができます。

なお、4日先、5日先の予報では、台風の強さ（中心気圧、最大風速、最大瞬間風速、暴風警戒域）の予報は行いません。
(注1) 台風の中心がおよそ70%の確率で入る領域

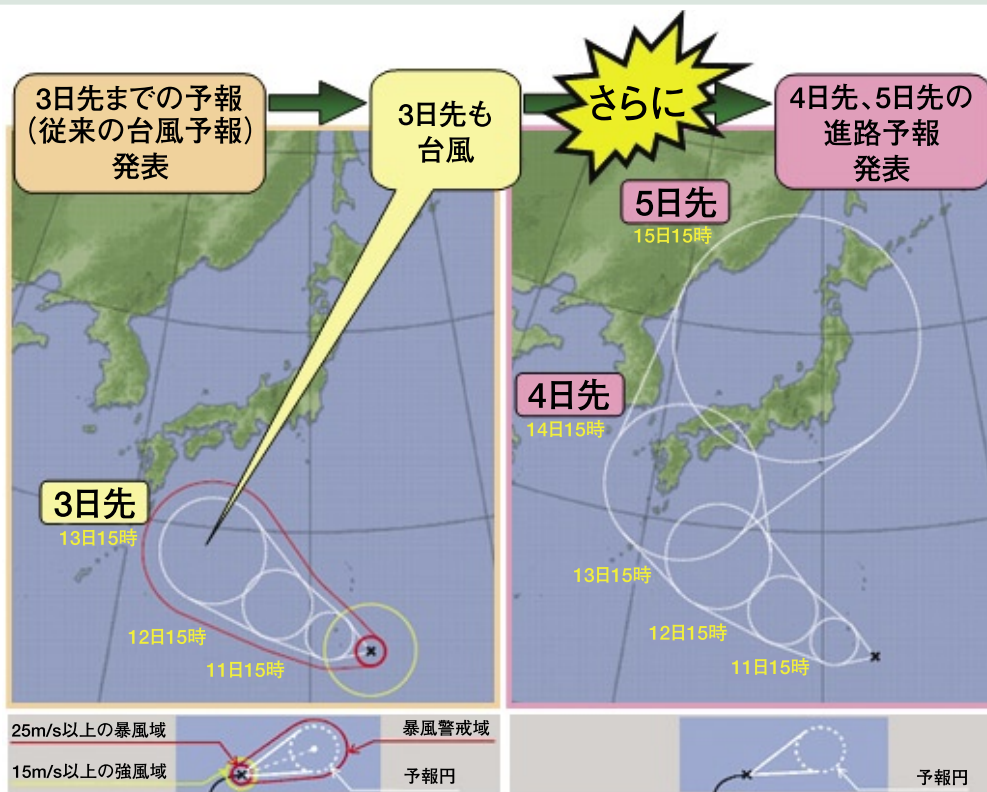


図 台風5日進路予報の発表について

	3日先までの台風予報	4日および5日先の進路予報
対象時刻	・72時間後まで	・96時間後、120時間後
予報内容	・予報円の中心と半径 ・中心気圧 ・最大瞬間風速 ・移動方向と速さ ・最大風速 ・暴風警戒域	・予報円の中心と半径 ・移動方向と速さ
頻度	・1日4回 (日本時間03、09、15、21時の観測に基づく。) ただし、24時間後までの予報は1日8回	・1日4回 (日本時間03、09、15、21時の観測に基づく。)
発表のタイミング	・観測時刻後50分以内 ・2個目以降は観測時刻後70分以内	・観測時刻後90分以内 ・2個目以降は観測時刻後110分以内

表 「3日先までの台風予報」と「4日および5日先の進路予報」



5月の気象

●●● 摂氏と華氏 ●●●

海外旅行先のテレビで何気なく天気予報を見ると100度を超えた気温が表示されている・・・一瞬驚くものの、そういえば「°F（華氏）」を使っていたのだなと思い出す、そんな経験はありませんか。今から300年以上も前の1686年5月14日*1、ポーランドのとある街でその単位の由来となった物理学者ファーレンハイト（Gabriel Daniel Fahrenheit）は生まれました（「華氏」は中国語でFahrenheitを「華倫海特」と音訳したことに由来します）。このファーレンハイトの誕生日を記念して、5月14日は温度計の日と制定されています。

現在、アメリカやイギリスなど一部の国を除いて、気温の表示には「°C（摂氏）」が広く用いられていますが、つい50年ほど前までは多くの国で華氏が温度の単位として用いられてきました（温度の単位としての歴史はどちらもほぼ同じで、摂氏は1742年スウェーデンの天文学者セルシウス（Anders Celsius）によって、華氏は1724年にファーレンハイトによって考案されたといわれています）。

日本における気象観測の気温の単位に摂氏が採用されたのはいつ頃なのでしょう。昭和50年に気象庁が編集・発行した「気象百年史」によると、明治15年（1882年）5月に内務省*2・陸軍・大学等で構成される委員会により、気象に用いる単位系としてそれまで使われていたイギリス式（長さはインチ、気温は華氏）とフランス式（メートル、摂氏）のどちらが適当かの検討が行われ、同年7月よりフランス式を採用することとしたとあります。その理由として、当時の先進国の学術分野では摂氏が用いられていることや摂氏における氷点

0度、水の沸点100度のほうが華氏における氷点32度、水の沸点212度よりも覚えやすいことのほか、温度が広く一般に利用される前に変更した方が影響が少ない、といったことが挙げられていたようです。

実際に当時の観測資料を見ると（図）、明治15年6月までは華氏、7月以降は摂氏表記となっており、気象官署ではこの時期に華氏から摂氏に移行したと考えられます（上述のとおり、同様に気圧の単位も変更されています）。一方、明治19年に内務省が定めた気象観測法によると「万国全時観測報ニハ摂氏及ヒ華氏ノ度ヲ以テニ様ニ温度ヲ記スヘシ」とあり、しばらくの間は国際気象通報には摂氏と華氏の両方を用いていたようです。

明治15年(1882年)6月						明治15年(1882年)7月							
日 号	平均 力 Mean Press- ure.	空 気 之 温 度 AIR TEMPERATURE.				日 号	平均 力 Mean Press- ure.	空 気 之 温 度 AIR TEMPERATURE.					
		平 均 Mean	最 高 Max.	最 低 Min.	平 均 差 Range			平 均 Mean	最 高 Max.	最 低 Min.	平 均 差 Range		
Date	英 寸 Inches	華 氏 F.	華 氏 F.	華 氏 F.	華 氏 F.	Date	メ ートル m. m.	攝 氏 C.	攝 氏 C.	攝 氏 C.	攝 氏 C.		
1	29.938	67.8	75.5	60.7	68.1	14.8	1	757.3	21.2	25.7	16.7	21.2	9.0
2	29.748	68.9	80.1	62.7	71.4	17.4	2	756.1	22.8	28.0	16.4	22.2	11.6
3	29.805	69.0	77.0	60.6	68.8	16.4	3	756.4	23.6	27.2	24.2	22.7	7.0
4	29.769	69.7	75.9	64.8	70.3	11.1	4	756.9	22.2	27.3	18.5	22.9	8.8

図 明治15年当時の気象月表(東京)の抜粋

なお、摂氏が広く一般に普及するには少し時間がかかったらしく、少なくとも昭和初期の新聞などではまだ華氏が使用されていたようです。また、委託や篤志により運用していた気象観測所の資料でも、華氏による気温の記録が明治15年以降にも散見されます。これまでの習慣がまだ残っていた（三浦栄五郎「気象観測法講話」（地人書館・昭和15年）によると、特に夏に華氏が喜ばれる傾向があるとしています。）ことや、海外から輸入した（またはそれを元に日本で作られた）華氏表記の温度計がまだ多かったことが、その要因であったのかもしれませんが。

*1 ユリウス歴による。現行のグレゴリオ暦では5月24日にあたる。
*2 当時は気象庁という組織は無く、内務省地理局が気象観測を統括していた。